ながの環境パートナーシップ会議
平成30年度活動成果報告書

手をむすんで

山にみどり・川に清流・谷に風・空に星
自然と和して発展するまち・人のくらし
みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

ながの環境パートナーシップ会議

ながの環境パートナーシップ会議 活動成果報告書の発行に寄せて

1992（平成４）年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた「地球サミット（環境と開発に関する国連会議）」で、持続可能な発展のための人類の行動計画「アジェンダ21」が採択されました。これを受けて、世界中の地方自治体で住民参加のもと、地域行動計画「ローカルアジェンダ」づくりが行われています。

長野市では、2003（平成15）年に、ながの環境パートナーシップ会議と協働で「アジェンダ21ながの―環境行動計画―」を策定し市民・企業・行政の協働により地域の環境保全活動を進めています。全国のアジェンダが活動を休止している中でながの環境パートナーシップ会議は困難を乗り越え継続発展をしてまいりました。

プロジェクトチーム、会員が減少傾向にありましたが2016年度以降は新しいプロジェクトチームの発足や、プロジェクトチームにパートナー企業として参加支援して頂けるようになり、パートナーシップ会議に新風が吹き始め会員増加傾向への転換の期となりました。

また、2015年９月「国連持続可能な開発サミット」が開催され150を超える加盟国首脳の参加のもと「我々の世界を変革する：持続可能なための2030アジェンダ」SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）2030年に達成すべき目標として掲げられました。

2018年度は、私たちの地球環境と未来を次の世代につないでいくために、持続可能な社会構築の契機になるとSDGsについて学習会を開催しました。

一人ひとりが身近にできることから、**「考働する」**活動の輪を広げていくことの大切さを学び、長野市の目指す姿**「しあわせ実感都市ながの：“オールながの”で未来を創造しよう」**を実現するため、より多くの市民・企業・行政の方々に参加いただき、環境先進都市づくりの一翼を担うパートナーシップの活動に、参加していただけることを目的に発刊いたします。

令和２年２月
ながの環境パートナーシップ会議
代表理事　**金井　三平**

目　次

活動成果報告書に寄せて
ながの環境パートナーシップ会議の概要 …… 1
ながの環境パートナーシップ会議の活動紹介 …… 3
第８回ながの環境団体大集合の開催報告 …… 4
公開学習会2018の開催報告 …… 9
生ごみ削減・再生利用プロジェクト …… 10
レジ袋使用削減プロジェクト …… 12
市民の森づくりプロジェクト …… 14
子どもの環境学習支援プロジェクト …… 16
小生物の育成環境保全プロジェクト …… 18
ぽんすけ育成プロジェクト …… 20
ゴマシジミ保護・育成プロジェクト …… 22
田中さくら公園作り＆
里山づくりプロジェクト …… 24
信州大学工学部環境学習における活動報告 …… 26
プロジェクトサポーター制度の紹介 …… 28
新聞記事等で見る
ながの環境パートナーシップ会議の活動 …… 29

＼ようこそ／

ながの環境パートナーシップ会議へ

**ながの環境パートナーシップ会議は、
市民・事業者・行政の三者が
連携協働し、様々な環境保全活動を
進めていく組織です。**

ながの環境パートナーシップ会議は、市民 ・ 事業者 ・ 行政が連携し、
長野市環境基本計画を推進するための組織として、平成13年６月に設立、
具体的な実行プロジェクトとして
「アジェンダ21ながの―環境行動計画―」に基づき、
「長野市環境ビジョン」実現のため、
各プロジェクトチームが環境保全活動に取り組んでいます。

未来に向かって
環境共生のまちづくりを
一緒に進めましょう。

イメージキャラクター
キラピー

山の緑も川の水も空の星も
人の心も、長野市中の環境も
人も未来もキラキラと輝き、
生き生きと暮らせるように、
という願いが込められています。

アジェンダ21と
ながの環境パートナーシップ会議

アジェンダ21 ってなに？

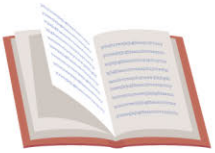
「アジェンダ（Agenda)」は日本語で「課題」、つまり、「アジェンダ21」で「21世紀への課題」という意味です。

1992年（平成４年)、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミット（環境と開発に関する国連会議）で、21世紀に向けて持続可能な発展のための人類の行動計画である「アジェンダ21」が採択されました。

これまで、私たちは大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムの中で、今日の豊かな社会を築いてきました。しかし、その一方で、地球温暖化、オゾン層の破壊などの地球規模の環境問題や資源の枯渇といった人類の生存に関わる問題を引き起こしてきました。この「アジェンダ21」では、これらの問題に対処し、持続可能な社会を実現するための国際機関、国、国民、事業者など様々な立場の人々が取るべき行動として40の分野、1,000以上の行動が示されています。

また、持続可能な社会を実現する鍵が地域にあるという考えから、国連が世界中の地方自治体に対して地域版のアジェンダ21、すなわち「ローカルアジェンダ21」の策定を求めることとなったのです。

「アジェンダ21ながの」を実行するながの環境パートナーシップ会議



ながの環境パートナーシップ会議は、長野市とともに長野市版ローカルアジェンダ21である「アジェンダ21ながの―環境行動計画―」を策定、これに併せて自然と人間の共存を軸に本市の理想の環境像を描いた「長野市環境ビジョン」も定めました。

本会は、アジェンダ21ながのや環境ビジョンを実現する組織として複数のプロジェクト活動を推進しています。

◉長野市環境ビジョン

山にみどり・川に清流・谷に風・空に星
自然と和して発展するまち・人のくらし
みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

豊かな山々には人の手が入り、林は清冽（せいれつ）な水を生み、里山、田畑、水辺には多くの生き物が息づいて、豊かな恵みを与えてくれる。

まちには、木々が茂る安らぎの空間、水が流れる潤いの空間、すがすがしい風のなかを、人々がゆったりと安心して行き交う空間、自然に調和した街並みがある。そこに、地球の恵みを大切にしている市民のくらしがある。

長野の環境を保全、復元、創造し、未来に引き継いでいこうと、ともに知恵を絞り、汗を流す多くの市民がいる。そして、市民の行動を支える仕組みがある。

ながの環境パートナーシップ会議の活動を紹介します

本会は、「つなぐ」・「伝える」・「行動する」を念頭に、長野市環境ビジョンの実現に向けて各プロジェクトチームが環境保全活動に取り組んでいるほか、各種団体事業を支援しています。

つなぐ

本会会員やより多くの団体とのつながりを強化するため、総会の開催及び各種団体の活動を支援しました。

※信州大学環境演習の報告については、26～27ページをご覧ください。

アレチウリ駆除活動

信州大学環境演習

山の日ウォーキング

伝える

本会の活動を広く情報発信するため、主催事業の開催や他団体のイベントに参加しました。

※ながの環境団体大集合の開催報告については4～8ページをご覧ください。

ながの環境団体大集合

信州環境フェア2018

地域づくり出会いの広場

行動する

各プロジェクトチームが様々な環境保全活動を実施しました。

※各プロジェクトチームの活動報告については、10～25ページをご覧ください。

生ごみ堆肥化の啓発活動

林業体験

自然観察会

ノー・レジ袋運動

環境学習

希少種の保護活動

第8回 ながの環境団体大集合 開催報告

私たちの地球環境と未来 ―これからの活動とSDGs―

ながの環境パートナーシップ会議では、環境活動に取り組んでいる団体や事業者などがSDGsを理解し合える場を設けるとともに基調講演会・分科会・ポスターセッション等を実施することで、今後どんな活動を行っていくべきなのか考えてもらえる機会とし、私たちの地球環境と未来を次の世代へつないでいくために第８回ながの環境団体大集合を開催しました。また、信州こども応援ドライブ、フードドライブを同時開催しました。詳細は次ページ以降をご覧ください。

開催日時 平成30年12月15日㈯　13時～16時
会　　場 長野市生涯学習センター ４階　大学習室

基調講演会「SDGs時代に求められる環境活動」

講師：一般社団法人環境パートナーシップ会議副代表理事　星野智子氏

SDGsの概要、国内外の動き、推進方法など環境に視点を置いた内容で講演いただきました。特に17の目標のほとんどが環境課題とつながっていることや課題解決のためには、官民協働等多様な主体同士のパートナーシップにより環境保全活動を推進していくことが大事であると教えていただきました。

▲講師の星野智子氏

▲基調講演会の様子

SDGsの取組事例発表会

SDGsの達成に向けて取り組んでいる市内外の企業・団体の担当者をお招きして発表いただきました。

株式会社八十二銀行　総務部環境室　調査役　坂本智徳氏

SDGsに関係した金融業界の動きとして、ESG（環境・社会・ガバナンスの三つの要素）とSDGsに取り組んでいる優れた企業へ積極的に投資している現状や八十二銀行のSDGsの取組事例、環境省が創設した「エコファースト企業」※に県内で初めて認定されたことなどが紹介されました。

※環境保全活動を積極的に取り組む先進企業を環境大臣が認定するもの

里山ウェルネス研究会　フォレストデザイン　代表　余頃友康氏

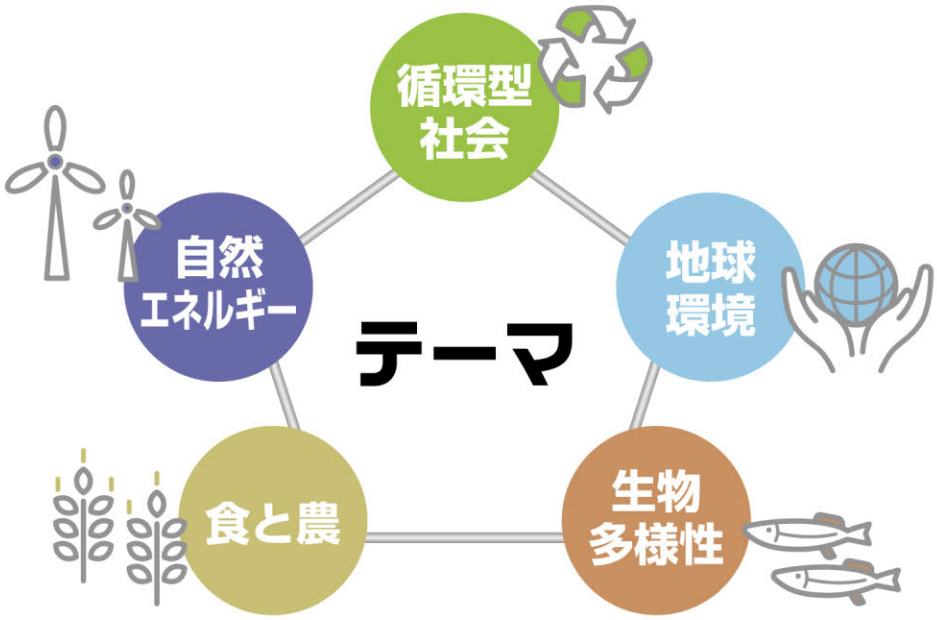
環境省のSDGsを活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業を受託し、地域木材の活用や林業における雇用を目指すとともに間伐材を活用したログファイヤー製作による障がい者雇用を通して、持続可能な地域づくりのための地域資源循環プランの実践について紹介していただきました。

NPO法人長野県NPOセンター　事務局長　山室秀俊氏

長野に住む高校生・大学生が地域の大人とコラボし、長野の街を良くするために活動してきた“youth reach（ユースリーチ）”がSDGsの実現を強く意識しながら課題解決をしていく取り組みや今後の活動計画などを紹介していただきました。

ワークショップ（分科会）

参加者全員が５つのテーマ（グループ）ごとに分かれ、SDGsの17の目標を達成するための新たな事業や仕組みづくりを考え発表していただきました。ワークショップでは、様々な意見交換が行われ、参加者同士の交流やSDGsへの理解が深められました。



▲ワークショップの様子

▲活発な意見交換

▲グループごとに発表

▲ワークショップまとめ（星野智子氏）

事業アイデア・ファシリテーターのコメント

循環型社会

Aチーム

望ましい社会について「心の叫びに気づく、安全・安心、資源・エネルギー、ごみ、自然」などの様々な思いが語られました。循環型社会への具体的事業提案はなかったが、企業、AI事業、さらに学校・地域などの連携及び教育の重要性について議論され、SDGsの「考え方」を共有できました。

Bチーム

この班のメンバーは、社会人の方や大学生でありました。循環型社会を実現していきたいとは多くの人が思っているのにどうしてあまりうまくいかないのか、どんな工夫をすればよくなるのかを主に考え、みんなで共感することができました。良い機会になりました。

自然エネルギー

Aチーム　事業アイデア名「森のエネルギーの有効利用事業・森を教育の場に事業」

このチームでは「森のエネルギーの有効利用」についての提案がありました。これは自治会単位での薪などの自然エネルギーによる発電で全戸に熱供給を行うものです。２つ目に「森を教育の場に」という事業で森の中で、自然エネルギーを学び、利用することを学習するものです。全ての事業に、事業者、山林所有者、自治会、教育関係のパートナーシップを形成して実施していきます。

Bチーム　事業アイデア名「夢のある電力供給システム」

メンバーが高校生、大学生、NPO関係者、議員とバラエティに富んだメンバーだったこともあり、アイデアが様々な広がり方をしていました。その中で、「学校」を軸に置き、学校に様々な専門家が関わることで夢のある電力供給システムを考えました。

地球環境

Aチーム

水について多くの時間を割きました。水は山から町を通り、海まで通じています。この水を安全・安心な水として確保することの大事さと、そのための連携、活動結果の広がりが話題の中心でした。SDGsとしては３、４、６、７、８、10、11、12、13、14、15、17に関連していました。

Bチーム

地球環境という幅広いテーマの中で、ある程度、話題を絞って進めていくべきだったと力不足を痛感しています。その中でも、参加者の方々の意見は、大変面白く、勉強になることばかりでした。事業など、具体的なことまでは議論できませんでしたが、大変貴重な経験ができたと思っています。

食と農

Aチーム　事業アイデア名「こども食農体験」

健全な土に触れる、微生物が植物を育む、命が響き合い３世代を交えた人が農を営み、共有（シェア）することで安心安全で美味しい作物を分かち合う。そんな食と農の体験広場を森の中に作るためのパートナーとして、核家族・大学・ボランティア団体・住自協・銀行・市場・交通機関などが必要です。

Bチーム　事業アイデア名「食を通じた健康づくり、地域づくり」

Bチームが目指したい社会としては、「食の安全」「地産地消」「食を通じた地域交流」などがあげられました。保存食の文化は、防災食にも生かせるという芋井での取り組みは大変勉強になりました。食の大切さを伝えていくためには、「家族」という存在も大切だという意見もでました。

生物多様性

Aチーム

子供たちの自然に対する関心を高めるため、学校と協力して水環境教育や水生生物教育を行いたいと考えました。きれいな山や川などを守り、環境の良い国を作り、人々が森に関わりを持ち自然と共生でき、皆が平和に暮らす社会を目指したいです。また、環境教育の指導者の育成も急がれます。

Bチーム　事業アイデア名「子ども向け自然観察会の開催、自然観察道の設置」

小学生などを対象に自然観察会を実施。また、観察道を設置することで安全に観察会ができます。子供の内から自然に興味を持ち、自然を知るために開催していきたい。自然と共存していくために「意図的な仕掛け」、「過剰過ぎない保護」、「複数の切り口で目標を達成」する必要があります。

ポスターセッションなど

各参加団体等の活動PRのポスター展示を通して、ポスターセッションを実施し団体・企業同士や来場者との交流を深めました。また、ご家庭で利用されない食品・学用品等を寄贈していただくフードドライブを同時開催しました。

ポスターセッション

▲活動PRポスター展示風景

▲ポスターセッションの様子

フードドライブ

本年度もたくさんの寄贈がありました。ご協力ありがとうございました。

参加団体一覧

【団　体】　11団体
NPO法人川中島福祉体育協会、NPO法人フードバンク信州、NPO法人NPOホットライン信州、
天空の里 いもい農場、里山ウェルネス研究会（フォレストデザイン）、ライトダウンながの実行委員会、
NPO法人みどりの市民、NPO法人長野県NPOセンター、ユースリーチ環境部、希少種の会、地球を守る会

【企　業】　３社
株式会社八十二銀行、ミサワホーム甲信株式会社、北信商建株式会社

【ながの環境パートナーシップ会議プロジェクトチーム】　９団体
生態系豊かな水に親しめる川づくり、生ごみ削減・再生利用、レジ袋使用削減、市民の森づくり、
子どもの環境学習支援、ながのカーボンオフセット、小生物の育成環境保全、ぽんすけ育成、
田中さくら公園作り＆里山づくり

公開学習会2018

開催報告

SDGsを理解して、行動を起こしましょう！

開催日時 平成30年11月13日㈫　13時30分～16時30分
会　　場 長野市役所第二庁舎10階　講堂

▲学習会の様子

ながの環境パートナーシップ会議では、本会会員のみならず一般市民等も対象にした環境について学び、考える機会を提供する公開学習会を実施しています。今回は、アジェンダ21ながの―環境行動計画―2018に盛り込んだ「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の「持続可能な開発目標」（SDGs）について学習しました。

▲講師の星野智子氏

▲ミニワークショップの様子

一般社団法人環境パートナーシップ会議副代表理事の星野智子さんにお越しいただき、SDGsの基礎から推進方法まで幅広く教えていただきました。

SDGsとは、2015年９月、国連にて全加盟国の賛同により、採択された新目標です。

貧困問題から、雇用・経済など先進国にも関係あるテーマまで入っています。

様々な立場の方が参加されていましたが、視点を変えれば他の分野の課題解決にも繋がることをミニワークショップを通じて実感できました。

また、特別ゲストとして長野県副知事の中島恵理さんにもご参加いただき、長野県のSDGsの取り組みについて挨拶を頂きました。

生ごみ削減・再生利用 プロジェクト

生ごみを
減らす活かす
市民の力で

生ごみ削減キャンペーンの継続と キッズ生ごみ農園の発展

30年度の主な活動として私たちのチームは、これまで住民自治協議会と協働で行ってきた生ごみ削減・再生利用講座において「生ごみ堆肥化の実践学習・生ごみを少なくするお料理教室」を引き続き開催し、また、信州環境フェアで「展示・クイズ・試飲・楽しい生ごみ教室」を実施、アモーレフェスタの「展示・販売」にも参加しました。

そして、「キッズ生ごみ農園クラブ」会員の生ごみ回収と堆肥化及びその堆肥を利用した野菜作りを実践し、「夏と秋の収穫祭･生ごみと野菜の交換市･軽トラ市」を実施しました。これらの活動により、3年目に入った「キッズ生ごみ農園クラブ」の会員が6家族から12家族と少しずつ増え始め、収穫祭の参加者もサポーター企業の協力があり、定着してきました。今後は「子供のための一坪農園」や「食と農と環境」を体験から学ぶスポット事業を充実させたいと思います。チームの例会は、毎月第2火曜日ふれあい福祉センターで行っています。

主な私たちの活動を紹介します

夏の収穫祭を盛大に実施

7月28日、サポーター企業（浄掃組合5社）と家族会員の親子が生ごみを一人1kg以上持参して参加。暑さと湿気の中でジャガイモ約600kgを収穫、その場で炭火焼ジャガバタを味わいました。生ごみ堆肥だけでこんなにも美味しいジャガイモに育つと大喜びでした。参加者には、大人が一人6kg子供が3kgのジャガイモをお土産として持ち帰っていただきました。

ミミズコンポストに生ごみを投入 生ごみと野菜の交換市を実施

収穫祭や交換市ではミミズコンポストが大活躍です。キッズ生ごみ農園に来ていただく時は、生ごみを1kg以上持ってきていただき、採れたての野菜と交換しています。家族会員は、収穫時期に呼びかけ野菜と交換しています。

今年からは家族会員の多くが生ごみ堆肥作りに協力したり、子供と一緒に種まきや草取りを率先してやっています。生ごみ堆肥で美味しい野菜ができる喜びも大きいです。

ダンボール堆肥化講座と 生ごみを少なくするお料理教室

安茂里地区住民自治協議会と若槻地区住民自治協議会のご協力により、生ごみ削減の「ダンボール堆肥化講座」を開きました。参加人数はそれぞれ20名前後ですが皆熱心に取り組んでいました。若槻住民自治協議会では、今年も「生ごみを少なくするお料理教室」も同時開催し、参加した男女は、生ごみを少なくするため和気あいあいとお料理のコツを工夫していました。その後に、皆で作ったお料理の味はまた格別でした。

信州環境フェアに参加
展示とクイズとシソジュース試飲

今年も信州環境フェアでは、盛りだくさんの内容で行いました。ブース展示は、生ごみ削減から再生利用までの流れをステージ１～４までの順に、削減グッズ、生ごみ堆肥作り、培養土づくり、花や野菜の鉢植えなど一目見てわかるよう工夫。恒例のクイズに答えて期限間近の漬物の素を戴けるコーナーは、多くの来場者に生ごみにしないで利用する機会となります。また、シソジュース試飲もお替りする子供がいて好評でした。

ステージ発表では、今年も「楽しい生ごみ教室」開きました。子供向けの「楽しい生ごみクイズ」を解きながらミミズを見せたり触らせたりすると子供たちは大はしゃぎ。最後に生ごみ堆肥で育てたジャガイモをプレゼントして大変喜ばれました。

秋の収穫祭は豊作、豚汁に舌鼓

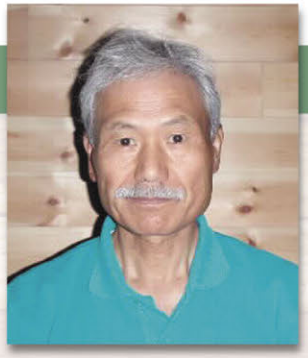
大根掘り、黒豆と黒小豆採りを親子で楽しんでいただきました。大きな総太り大根は、掘るのは大変でしたが、柔らかくて甘いのでそのままサラダに煮物に存分楽しめました。掘りたての大根に人参、ジャガイモ、キノコ、さつま揚げと具たくさんの豚汁に、つきたてのお餅を入れて皆で焚火をしながら最高のお昼ご飯でした。参加者には、大根を一人10本持ち帰っていただきました。

アモーレフェスタに展示、出店

11月４日に安茂里地区アモーレフェスタに展示と出店をしました。今年も体育館の展示と駐車場で生ごみ堆肥で育てた大根の直売をしました。来客は、大きくて立派な大根が有機・無農薬で３本200円の安さにびっくり。試食も功を奏してあっという間に完売でした。

展示では、生ごみを減らすアイデアグッズや段ボール堆肥化の見本を並べて説明。特にキッズ生ごみ農園クラブの活動紹介に聞き入る人や入会希望者もありました。

プロジェクトリーダーから一言



リーダー　河西　弘明

昨年に続き30年度もキッズ生ごみ農園クラブの活動を中心に、セブンイレブン記念財団による環境市民活動助成金を交付していただいたことで、農業機器や資材の充実が進み、新たに脱プラスチック運動として「麦ストロー製作」のためライ麦の試験栽培を始めました。親子で麦踏み体験をしてみんなで麦刈りをしてストローを手作りする。そんな夢を描いて10月に種まきをしました。

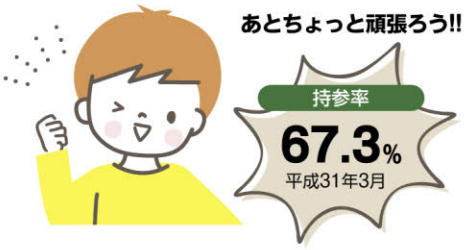
また、住民自治協議会主催による生ごみの削減・再生利用を呼びかける啓発活動にも、生ごみ堆肥化の成果として農場で生産した野菜（ジャガイモ・大根・黒小豆など）をクイズや講座の参加賞や試食コーナーに活かしたり、また、「生ごみを少なくするお料理教室」でこれらを調理して味わっていただきました。

生ごみを減らしてこんなに素敵な活動ができるのだと実感していただければありがたく思います。チームでは次年度に向けて活力を付けるため、軽トラ市や朝市の出店により、自己資金の確立を目指して努力しているところです。

レジ袋使用削減 プロジェクト

私たちチームはこんなことをしました

プラスチックごみを減らすために マイバッグ持参率80%を目指して



★マイバッグ持参を当たり前に

- 長野市内の食品小売り事業者へのアンケート調査
- 長野市内の54校の小学生に４年生3,300人にパンフレット「おしえて！レジ袋のこと」を配布
- 市民団体の協力を得て持参率調査を実施

主な私たちの活動を紹介します

長野市内の食品小売り事業者へのアンケート調査

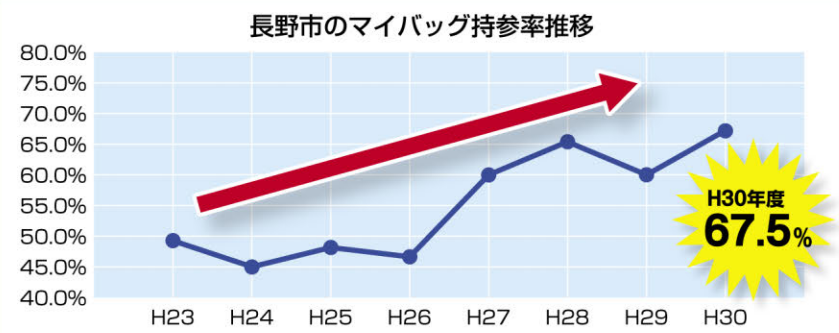
この調査は、「レジ袋チーム」が使い捨てプラスチックの削減にほぼ20年近く取り組み、ようやく60％を超える持参率となった機会に事業者の考えを聞こうということで実施した。

対　　象：長野市内に店舗を持つ食品小売事業者（スーパーマーケット15社）
回答数・回答率：10事業者・回答率66％（無回答も含む）
調査項目：有料化、レジ袋削減の取り組み、環境活動、SDGs等について
実施方法：調査票を事業者本部へ郵送、記述式にて郵送にて回収
期　　間：2018年11月～12月

【主な結果】

- 有料化（無料配布の中止含む）については、回答10社のうち７社が有料化実施の回答であった。その理由として社会がよくなる（環境配慮及び消費者意識向上）ためと回答した企業が多かった。レジ袋を有料化していない店舗では、レジ袋の提供を「消費者サービス」と捉えている。
- 有料化の有無にかかわらずどの店舗も自社による店頭啓発は、半数以上の企業が実施。また、何かしらの環境への取り組みをしており、資源物の店頭回収及び事業ごみの分別、資源化については全社が実施。店舗周辺のゴミ拾いといった環境美化活動も９社が取り組んでいる。企業側の積極的な取り組みがうかがわれた。
- SDGsの取り組みが有と回答した回答10社のうちの４社であった。

平成16年からキャンペーンを行ってきました。右の図は平成23年からの持参率の推移です。ようやく６割を超えました。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
長野市持参率	49.3%	44.9%	48.2%	46.7%	60.3%	65.5%	60.3%	67.5%

長野市内の小学生へパンフレット配布

長野市内の小学４年生は、ごみ学習としてながの環境エネルギーセンターを見学します。その見学時に、パンフレットを配布して学習してもらいます。

「レジ袋のこと教えて」をお読み下さる先生方へのメッセージ

私たち「ながの環境パートナーシップ会議」のレジ袋使用削減チームは、ごみの削減を目指して平成15年から「レジ袋」の削減を目指して活動しています。

お陰さまで、平成29年３月現在、マイバッグ持参率はほぼ60％までになりました。

そこで、長野市のマイバッグの持参の意識を次世代に継続的伝えていこうと、小学生用の環境学習補助教材パンフレット「おしえてレジ袋のこと」を作成しました。

暮しの中で誰もが使っている「レジ袋のこと」を「知り」、レジ袋を削減することが何故必要なのかを「理解」し、３Rから２Rへの循環型社会をレジ袋の削減からはじめよう、私たちの地球のために「もったいない」のこころを伝える内容となっています。

是非、学校の学習の中で「もったいない」の意識を育てる学習の一助としてご活用・ご利用いただければ幸いです。

信州環境フェアに出展

今年の信州環境フェアは、昨年好評だったスーパーで１日に使用されるレジ袋の重さ（約）11kgの体験コーナーをメインに実施。やはり今年も参加者の関心が高く、いつもにぎわっていました。又レジ袋に関する展示を行い、来場者のレジ袋削減についての理解を深めました。

ノー・レジ袋デーでの啓発活動

毎月５日をノーレジ袋ーとして、市内のスーパーで市民団体の協力を得て、啓発活動を行っています。

ティッシュなどを配布して、マイバッグ持参を呼び掛けています。

プロジェクトリーダーから一言

リーダー　**渡辺ヒデ子**

子どもたちに持続可能な社会を残すため

レジ袋削減の事業者アンケートの回答にあったように「脱プラスチック」の足がかり（きっかけ）として、「レジ袋の辞退」があります。しかし、レジ袋やストローだけのプラ容器レベルの狭い枠ではなく、これほどまでに拡大したワンウェイプラ（使い捨てプラスチック）が身近となっているライフスタイルをどうしたならば、消費者が変えていくことができるのか社会全体の問題として考えていく必要があるのではないでしょうか。

私たちは利便性だけを追い求めるのではなく、どのような未来を選択するのかという視点に立ち、今後の活動を捉えていくべきではないかと思います。広い観点で正しい情報を伝え、持続可能な社会を目指すには、一人一人の日常の行動を変えることから始まると確信します。

「ながの環境パートナーシップ」では、今後も、使い捨てのプラスチック容器包装であるレジ袋の削減活動を、より未来を見据えた取り組みとして捉え、市民、事業者、行政の協働により、更に住みやすい長野市を目指します。

市民の森づくり プロジェクト

私たちチームは
こんなことを
しました

市民の皆さんに喜んでいただけるような森づくりに取り組みました

私たちのチームは、30年度も例年と同様、以下の事業を実施しました。

７月より５回積み上げの「趣味の林業講座」、９月「高校生の森林体験受入」、10月「秋の里山散策」、３月「かんじき体験」、４月「きのこの駒打ち体験」の開催、信州環境フェア、山の日ウォーキングイベント、森づくりワークショップ、環境こどもサミット、善光寺の森整備作業への参加、毎月２回の定例森林整備作業、およびミーティングなどを積極的に行いました。

主な私たちの活動を紹介します

趣味の林業講座

７月～９月に、５回積み上げの趣味の林業講座が、長野市森林整備課、長野県林務部、市民の森ながのの共催で開催されました。基礎からしっかりと学びたいという方、自分の山の手入れをしたい方など今年も多くの受講生が集まり、大変に活気あふれる林業講座となりました。

きのこの駒打ち体験会や里山散策での自然観察

きのこの駒打ち体験会や秋の里山散策などに合わせ、市民の森にて自然観察を実施しました。

散策し易く、気持ちの良い森となったボブスレー・リュージュパークの市民の森を見て頂くことに合わせ、森林の役割や大切さについても学んでいただきました。

高校生の林業体験を受け入れ

今年も、北部高校生の生徒さんの森林体験講座をボブスレー・リュージュパークの市民の森にて受け入れました。手鋸を使って、高校生の皆さんで協力しながら間伐体験をしていただきました。中には、将来林業関係の仕事に就きたいという生徒さんもいて、なかなか頼もしいと思いました。

かんじき体験

かんじき体験は市民の森づくりチームの活動の中でも真冬に開催される愉しいイベントの一つです。

午前中にボブスレー・リュージュパークの管理棟の一室をお借りして参加者それぞれがMYかんじきを製作しました。悪戦苦闘しながらかんじき作りをする方も見えましたが、午後はそのMYかんじきを履いて「市民の森」にて雪の森の散策を愉しみました。

きのこの駒打ち体験

４月には、きのこの駒打ち体験会を行いました。秋の収穫を夢見て皆さんそれぞれ頑張って作業に取り組みました。駒打ちの後は林内に敷設。乾燥を防ぐために少し埋めたり、落ち葉を掛けたり、敷設する場所を考えるのもなかなか難しいものですが、作業を始めると皆さん真剣でした。

環境こどもサミットなどのイベント

環境こどもサミットなどの環境イベントにも出展しました。内容は木工クラフト、山の材料でブローチやアクセサリーを作ったり、ミニかんじきを作ったり、木の名札を作ったりしました。子供たちの発想力には驚きますし、大人顔負けの出来栄えでした。

メンバーは普段から森林整備の合間を見て材料の調達もしています。

プロジェクトリーダーから一言

リーダー　**片桐　勝治**

山の作業を通して仲間と出会い、語らい、喜びを分かち合うことができました。日常生活では味わえない何かが、そこにはあるのです。

長野市内に、市民が誰でも入ることのできる森があちこちにできて、自然の中で遊んだり、学ぶことが身近にできる、そんな森が長野市民の財産となって行く、そんな里山の在り方が、我々の夢でもあります。

ボブスレー・リュージュパークの奥の森は、私たちが手入れを始める前は、立入ることもままならない藪々の森でしたが、今では気持ち良く散策の愉しめる森となりました。どうか皆さんも一度この「市民の森」に来てみて下さい。きっと何かを感じていただけるのではないでしょうか。

まだ道半ばです。仲間となっていただける皆さんを募集しております。

URL http://siminnomori.nagano-ep.net/

子どもの環境学習支援 プロジェクト

私たちチームは
こんなことを
しました

ユース（中高大学生）の環境学習と交流に取組んでいます

地球環境の危機の時代、地域に環境活動を根付かせることがますます重要になっています。長野市には多くの環境NPOが活動し、こどもエコクラブもあるのですが、中学生、高校生になると環境活動の機会がなくなることが、大きな課題です。国連環境計画会議など海外の環境交流活動に子どもたちを参加させてきた体験から、国際的な交流はこどもたちの意識や、考え方を大きく成長させることがわかりました。そこで、中高大学生（ユース）を対象とした国際ユース環境会議を毎年開催してきました。国内外のユースが交流することで、子どもから大人まで、各世代の環境活動がつながり、長野市が「国際環境都市」として大きく発展していけたらと考えています。

主な私たちの活動を紹介します

長野から始める!

- 周りを山に囲まれて、海外を意識しにくい
- オリンピック経験がある
- 地元を良くしたい（地域活性）
- 環境が豊か

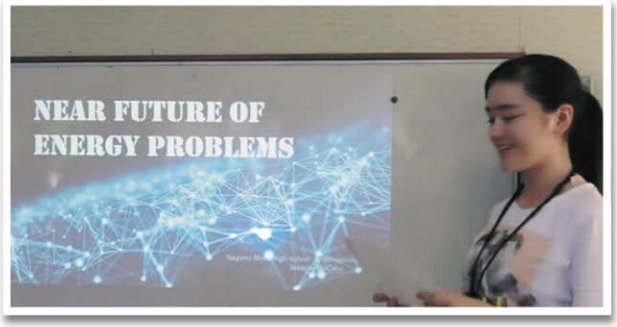
長野を国際環境都市に！

国際ユース環境会議の経過

2010.11.13　：環境X国際交流をこどもサミットで呼掛け
2012.06.15-17：第１回を鬼無里で
2013.08.09-11：第２回を大岡で
2014.09. 5 - 7 ：第３回を戸隠で
2015.06.27-28：第４回を鬼無里で
2016.06.15-17：第５回を小田切で
2017.06.30-02：第６回を小田切で
2018.06.22-24：第７回を長野市内シナノキ会館で
2019.09. 7 - 8 ：第８回を小田切で

今年のテーマは「近未来のエネルギー」レポート発表

事前に各自が作ってきたレポートを一人ずつ英語で発表しました。同じテーマでも人によって様々な視点から発表することで、新たな発見ができるとともに、とても良い経験となりました。



大学生主催のワークショップ

エネルギーを体験できる実験を、燃料電池、ペルティエ熱電変換、スターリングエンジン発電機、赤外線放射温度計をもちいておこなった。様々なエネルギーを変換することで具体的に体験することができた。真夏のような日差しで車のボンネットの上を放射温度計で測ったら黒い車は白い車より10度Cも高く驚いた。

各国のエネルギー事情

中国、ブラジル、日本の各国のエネルギー事情について紹介し、英語で討論しました。各国の環境事情を知るとても良い経験となりました。また、英語での問答ができ、難しかったと思いますが楽しい時間を過ごすことができました。

BBQで楽しく交流

ハンターの後藤さんから長野県でのシカやクマなどの野生動物の現状とその対策について話を聞き、狩猟されたシカや捕獲されたハクビシンを実際に解体し、食べることで野生動物を身近に感じる貴重な体験をしました。

未来への手紙

この会議で感じたことや体験したことを思い出しながら、自分と世界の未来へ向けての手紙を書きました。普段の生活の中では未来を考える機会はあまりないように感じます。様々な世代の人と一緒に生活する中で何を学んだのか、それをどのように活かせるのかなど、考えをまとめるのは大変でしたが、有意義な時間となりました。来年に自分の書いた手紙が届くのが楽しみです。

プロジェクトリーダーから一言

リーダー　**渡辺　隆一**

長野市には多くの環境活動がありますが、「地域に根付いた活動」のためには子どもから中高大学生、大人まで継続して活動が行われる場が必要です。そのために国際ユース環境会議を立ち上げ、今年で８回目となりました。今回は前回参加ユースがテーマや内容を工夫するなど、新しい取組が始まりました。長野市が真に環境都市になるために海外にも目を向けてみませんか。そのことで初めて地元の良さと足りない部分とがわかり、長野市らしい環境活動が生まれてくるのではないでしょうか。皆さんも世界と足元の長野の現場から未来を考えてみませんか。

小生物の育成環境保全 プロジェクト

私たちチームは
こんなことを
しました

国蝶オオムラサキの環境保全と ベニエドヒガン桜の育苗に取組みました

私たちチームは、平成30年度活動としてオオムラサキ蝶の飛翔乱舞する事を夢見て生息環境の保全・整備に取り組みました。

また、ソメイヨシノ桜の後継種として「マツシロベニエドヒガン桜」の育苗に取り組み、１千本を目標に普及活動を行いました。

主な私たちの活動を紹介します

①小学生向けオオムラサキ蝶の観察会開催

松代地域の小学校（豊栄・東条）の観察会を実施しました。オオムラサキ蝶の実物に出会い、歓声をあげていました。子供たちが目の輝かせて観察をする様子が印象的でした。（平成30年６ ～ ７月）

②一般市民向けオオムラサキ蝶の観察会開催

一般市民対象の観察会を開催し、70名の参加者がありました。オオムラサキ蝶の幼虫や羽化の様子を観察し、感嘆の声があちこちから聞こえました。（平成30年７月）

③オオムラサキ蝶生息地の整備作業

オオムラサキ蝶生息地の除草作業を実施しました。ノイバラ、ヤブジラミ、ニワウルシ幼木などを除去しました。（平成30年10月）

④オオムラサキ蝶生息地の看板除幕式

生息地入口に加藤長野市長による直筆の文字を手彫りにした看板を設置しました。設置に際し一般市民の見守る中、来賓と「まきば保育園」園児により除幕式を行いました。（平成30年11月）

⑤エドヒガン桜苗の譲渡

“1000本桜大作戦”の関連として、エドヒガン桜の苗を浅川住民自治協議会へ30本譲り渡しました。浅川霊園の参道脇へ植樹されました。
（平成31年４月）

プロジェクトリーダーから一言

リーダー　杉山　茂樹

“オオムラサキ蝶の里・竹ノ入について思う”

私達「小生物の生育環境保全PT」が「スハマ会」より、オオムラサキ蝶の保護活動を引き継いだのは６年前のことです。その後、オオムラサキ蝶の発生が減少ぎみでしたが、昨年度から多少回復しました。まだ満足するにはほど遠い状態です。私達はどのように自然に接し、オオムラサキ蝶を増やすにはどのようにすべきか？オオムラサキ蝶が「竹ノ入」の空に乱舞する姿を夢見ながら、会員の皆さんや一般市民の方々の知恵や情報を頼りに前に進み、生育環境の整った「竹ノ入の森」を次世代に引き渡したいと思っています。

ぽんすけ育成 プロジェクト

私たちチームは
こんなことを
しました

ぽんすけ(シナイモツゴ)を通した信里の生態系保全・環境維持

ながの環境パートナーシップ会議に参画して３年目となります。信里地区の「ぽんすけ育成会」です。よろしくお願いいたします。、今年で会発足４年目になりますが、絶滅の危機に瀕するぽんすけ（シナイモツゴ）を守り、育て、次世代に引き継ぐための「ぽんすけ育成プロジェクト」に取り組んでおります。

主な私たちの活動を紹介します

シナイモツゴって何？

コイ科の淡水魚で全長約８㎝。都市化の開発や外来魚などによる捕食等により、減少傾向にあり、国及び長野県が絶滅危惧種に指定しています。長野県では、長野市、上田市、栄村に生息しており、その中でも長野市信里地区には全国的にも珍しいため池群にシナイモツゴが生息しています。信里地区ではシナイモツゴのことを「ぽんすけ」と呼び親しまれています。

ぽんすけ観察会

春と秋に、信里小学校の池にて、ぽんすけ観察会を開催しました。会員以外も参加できる公開観察会と信里小学校の児童・地域住民を対象としたものです。

Tシャツなどグッズ販売

ぽんすけ育成会のオリジナルTシャツ、バッジ、ステッカー、シールを作成し、ぽんすけ観察会や茶臼山動物園まつりでのブース出展時に販売しました。大変好評です。一人でも多くの方にぽんすけ育成会を知ってもらいたいです。

ぽんすけ田んぼでのお米作り

ぽんすけの生息するため池の水は信里地域の稲作にとってはとても大切な物です。逆にいうと、稲作をして、ため池が管理されているからぽんすけは生きていけるのです。田んぼの生態系を維持するために育成会では、ぽんすけ田んぼでの稲作に取り組み、できたお米を「ぽんすけ米」として販売しています。

ため池の掻い掘り

ため池を整備しないと最後には湿地化してしまいます。育成会ではNPO法人生態工房とタイアップして信里のため池を掻い掘りすることにしました。冬期のため池を使用していない時期に池の水を抜いてたまった泥やヘドロをくみ出します。

ぽんすけ生息調査

信里には400を超えるため池が存在しています。育成会では30年度にため池のぽんすけ生息調査を開始いたしました。

信里のため池は全て所有地です。地主の方に許可を取らなければ立ち入ることはできません。もちろん育成会では地主の方にご協力を頂いています。

プロジェクトリーダーから一言

リーダー　小林　和子

シナイモツゴ絶滅の危機を知りぽんすけ育成会を立ち上げ、にわか勉強ながら観察会や学習会を行いここまで参りました。シナイモツゴの命の危うさと向き合いながら保全活動を通して地域の活性化にもつなげたいとみんなでがんばっています。当会の活動は平成28年４月、長野県から保護回復事業として認定されました。

ぽんすけ（シナイモツゴの愛称）の生息池を守るための活動（調査・研究）に住民の理解協力が大事なので、今後は住民に向けての広報活動に力を入れたいと思っています。

ご理解ある皆様に支えられ、心を合わせ楽しく事業に取り組みたいです。皆様ご参加下さい。

ゴマシジミ保護・育成 プロジェクト（浅川地区住民自治協議会）

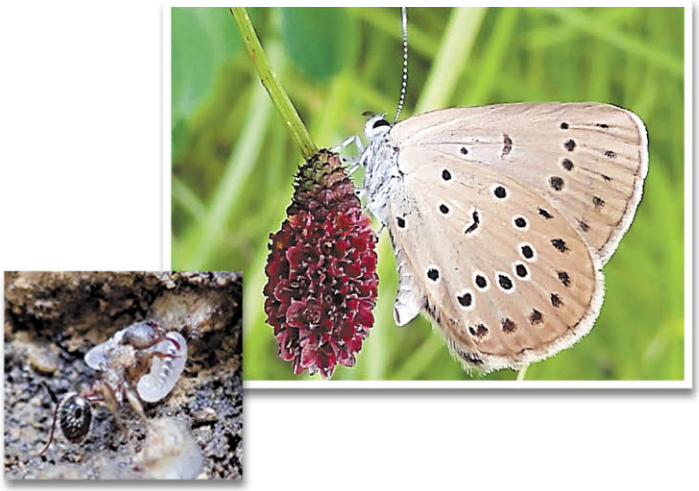
私たちチームは
こんなことを
しました

絶滅危惧種ゴマシジミの保護育成活動に取り組みました

私たちチームは、長野市浅川地区、長野市霊園に生息する環境省のレッドデータリスト絶滅危惧種１A類に指定の蝶、ゴマシジミの保護育成活動に取り組みました。

また、この取り組みを次世代へつなぐ方策として、ゴマシジミを題材にした紙芝居を制作し、啓発活動を実施したほか、紙芝居を市内全小学校へ寄贈しています。

主な私たちの活動を紹介します



ゴマシジミって何？

成虫は開張40㎜前後。環境省の「絶滅危惧１A類」に指定され、本州中部亜種としては長野県長野市浅川地区と松本市奈川地区にごくわずか生息しています。

幼虫は、ワレモコウを食草とし、その後、シワクシケアリの巣に運び込まれ、巣の中では、アリの幼虫を食べて成長するという特異な生態をもちます。

地元小学校がワレモコウの苗を育苗、生息地で自然観察会

ゴマシジミの食草「ワレモコウ」を増やしたいと地元の浅川小学校に苗を託し、育苗を依頼しました。

また、毎年、４年生を対象にした自然観察会を開催しています。

これらのことを実施することで、子どもたちにゴマシジミの生態を知ってもらうとともに自然環境により関心を寄せてほしいと願うばかりです。

密猟を防止!!　生息地内をパトロール

私たちチームは、ゴマシジミの密猟を防ぐため、生息地である長野市霊園内の巡回パトロールを実施しました。密猟者は霊園職員がいない時間帯を狙おうとするため、早朝から同職員が出勤する午前８時30分まで広さ26ヘクタールある霊園内の生息区域５か所を中心にパトロールしました。

また、ゴマシジミは、長野県の保護条例で無届での捕獲が禁止されているため、防止看板も設置しました。皆さん、保護活動にご理解ご協力をお願いします。

密猟者は５年以下の懲役又は500万円以下の罰金に！▶

「がんばれ!!ゴマシジミ」の紙芝居を上演

昨年度、ゴマシジミに関心をもってもらおうと、ゴマシジミの一生を描いた紙芝居「がんばれ!!ゴマシジミ」を制作しました。この紙芝居は、地区住民が脚本を考え、北部中学校美術部の生徒に絵を描いてもらった手作りのオリジナル作品です。上演するのは、地元住民の紙芝居ボランティア「にこにこ一座」が担当し、各地で上演会を実施しました。

また、多くの子どもたちにゴマシジミや地域の自然について知ってもらおうと、長野市内の小学校全校に紙芝居を寄贈しました。

プロジェクト事務局から一言

浅川地区における「まちづくり計画」の一環である里山の整備のなかで野生希少種の蝶「ゴマシジミ」の生息が確認された。自然環境に敏感に適応しながら秘かに生息してきたその生態系を学び、大切さを生かすため、子供から大人まで地域住民の参画による保護育成活動を始めた。現在、定着しつつあるこの活動を今後いかに継続するかが課題である。

事務局　原田　孝成

田中さくら公園作り＆里山づくり プロジェクト

私たちチームは
こんなことを
しました

里山の保全＝さくら公園作りに取り組みました

私たちチームは、平成30年６月～平成31年５月、里山の保全の一つの形『さくら公園作り』を次のように取り組みました。

１年間の目標として、さくら公園祭りを行うこと。この祭りに合わせて、公園の入り口に看板を立てよう。と考え実行しました。

主な私たちの活動を紹介します

１月度

３月21日にさくら公園祭りを行うことを決め、実行委員会を組織すると共に、案内板の除幕式を行うことにした。

２月度

看板兼案内板の作成日程と材料の選定。

３月初めより作成を開始

まず、設置場所の選定

入り口がよくわからないと言う声を聞き旧北国街道沿いの入り口に決めました。会の長老がそのちょうど立てたいと思った場所の地主で、即刻決定。

どんなものを？

イメージを元に当会テクニシャンが設計

３月21日　当日

早朝より雨も、参加者の熱意が次第に小雨に、式の始まる頃には雨も上がりました。初お披露目の案内看板の前で記念撮影です。

この後、桜の手入れを行い、公民館で豚汁パーティーをし、交流しました。

若槻地区

田中桜公園に看板

地元有志 存在アピール

若槻地区田中の住民有志は、桜の名所を目指して地元の土京山中腹に整備している「田中桜公園」の看板を作り、21日に現地で開いた公園祭りで披露した。住民に公園の存在をアピールし、親しみを持ってもらう。

看板はおおむね縦1.8㍍、横4㍍。名称を書き、公園の入り口に設置した。祭りでは除幕式を行い、集まった約50人の住民が「これなら場所が分かりやすいね」などと看板を囲んで話していた。

看板を設置した祭り実行委員会の上條補喜委員長（70）は「公園の場所が分かりやすくなったので、多くの住民に親しみを持ってもらえればいい」と期待していた。

お披露目後は参加者が桜の成長を観察。田中公民館で実行委が豚に設置した。祭りでは除幕式を行い、集まった約50人の住民が「これなら場所が分かりやすい」などと看板を囲んで話していた。

看板はおおむね縦1.8㍍、横4㍍。名称を書き、公園の入り口に設置した。祭りでは除幕式を行い、集まった約50人の住民が「これなら場所が分かりやすい」などと看板を囲んで話していた。

看板を設置した祭り実行委員会の上條補喜委員長（70）は「公園の場所が分かりやすくなったので、多くの住民に親しみを持ってもらえればいい」と期待していた。

お披露目後は参加者が桜の成長を観察。田中公民館で実行委が豚に設置した。祭りでは除幕式を行い、集まった約50人の住民が「これなら場所が分かりやすい」などと看板を囲んで話していた。

同公園は、住民有志が約4500平方㍍の耕作放棄地を整備中。過去2回の公園祭りで、タイリョウザクラやヤエベニオオシマなどさまざまな品種の桜苗木約80本を植樹している。昨年は5～6本が花を咲かせたという。

披露された看板

上の記事は長野市民新聞
下は週刊長野

（1）2019年（平成31年）3月30日（土曜日）第1739号　週刊長野　長野市・飯綱町・信濃町・小川村の皆さまにお届けしています

完成見学会　3/30(土)・31(日)・4/1(月)　10:00～16:00　長野市稲葉田

週刊長野　発行所／㈱週刊長野新聞社　〒381-0005 長野市平林一丁目27番27号　☎(026)244-5946　FAX(026)243-6285　広報紙長野民報　携帯サイト http://www.weekly-nagano.co.jp/　メール長野・中信広告「野郎」

広告取扱／㈱ながのアド・ビューロ☎(026)291-8604／㈱共立プランニング☎(026)238-6877／㈱アサヒエージェンシー☎(026)233-2222／㈱三広☎(026)244-5315／㈱週刊長野☎(026)244-5946　問い合わせ／info@weekly-nagano.co.jp

信州新町　豊かな自然！芸術！ふるさとの味ジンギスカン！　詳しくは10-11面をご覧下さい

耕作放棄地を桜の公園に 活動3年目 70本根付く

田中区 里山づくり里おこし事業会

「子どもの成長とともに桜の成長を感じられるなんて幸せだと、10年後が楽しみ」と話す日原さん夫婦。

「みん」で、家族で植えた木の世話に、2人の子どもと一緒に訪れる日原さん夫婦。小学2年生の長男、一歩君は「きれいな花が咲くといい」と、嬉しそうな表情。

桜の水が根付いたのを喜ぶ事業会のメンバーと区長＝3月21日・田中桜公園で

若槻地区の集落の一つ、田中区の「田中里山づくり里おこし事業会」（15人）は、昨年、区民ら約50人が集まった、自分が植えた桜の様子を眺めたり、豚肉を味わったりした。

若槻地区の集落の一つ、田中区の「田中里山づくり里おこし事業会」（15人）は、昨年、区民ら約50人が集まった、自分が植えた桜の様子を眺めたり、豚肉を味わったりした。

「3年目の春を楽しもう」と、3月21日に開かれた「田中桜公園祭」。母親におんぶされた小さな子どもから お年寄りまで、区民ら約70人が桜の苗木をつけた。

「田中桜公園祭」。母親におんぶされた小さな子どもから お年寄りまで、区民ら約70人が桜の苗木をつけた。

同事業会の発起人メンバーの佐藤嘉雄さん（60）は「汗水流して、みんなで植えた桜が無事に育ってくれたら嬉しい」と、感慨深げな表情。

同事業会の発起人メンバーの佐藤嘉雄さん（60）は「汗水流して、みんなで植えた桜が無事に育ってくれたら嬉しい」と、感慨深げな表情。

「花が咲く時期にみんなで集まって、交流できる場所ができたらすばらしい」と笑顔。

「花が咲く時期にみんなで集まって、交流できる場所ができたらすばらしい」と笑顔。

「地域の人たちが協力して、桜の苗木を寄せてくれる場所になっている」と、活動の手応えを語る同事業会の佐藤嘉雄さん。「子孫の代から後の世代から後の世代から後の世

信州大学工学部
平成30年度「地域環境演習」における活動報告

信州大学工学部機械システム工学科
教授　榊　和彦

本学部学生向けの選択科目である「地域環境演習」では、平成19年度の開講以来、環境マインドをもつ人材の育成を目的とした実地教育を行っています。受講生は環境問題解決への取組を通して、「自らPDCAサイクルを機能させて行動できるようになる」ことを目標として、ながの環境パートナーシップ会議のプロジェクトに参加させていただいています。前期に、「地域環境演習Ⅰ」として１単位を修得すると、その後「地域環境演習Ⅱ」として、もう１単位を修得することができます。

平成30年度前期には、「地域環境演習Ⅰ」として、(1) 子どもの環境学習支援（１名）、(2) 市民の森（１名）、(3) レジ袋使用削減（１名）の３つのプロジェクトチームに３名の学生が参加しましたが、１名が事情により取りやめ、２名が成果発表会まで行いました。また、演習Ⅱとは受講はせずに一市民として、前期の子どもの環境学習支援チームに１名、後期の市民の森チームに１名が活動に参加させていただきました。さらに、P会議主催の第８回「ながの環境団体大集合」スペシャルプロジェクトチームにも３名が参加し、企画と実践を体験させていただきました。

以下に、その活動内容について紹介とともに、これまでの受講者の推移を報告します。

国際ユース環境会議　受入チーム　子どもの環境学習支援プロジェクトチーム

子どもの環境学習支援チームは、６/22 ～ ６/24の日程で信州大学教育学部にて行われた国際ユース環境会議に参加し、運営に携わりました。その準備段階から会議の実行委員会の活動に協力しました。

今回の会議のテーマであった『2030年の長野の環境とくらし』についてのプレゼンテーション、自然探索、３つのワークショップ『都市農について考えよう』、『大学生企画の環境ワークショップ』、『長野と自分の未来を考えよう』などを行いました。プレゼンテーションにおいては、『SDGs未来都市の長野県』として、長野県のしあわせ信州創造プラン2.0なども取り上げました。また、英語での海外とのスカイプ会議で環境問題を討論するなど、普段の生活では慣れないことにも積極的に参画しました。食事の時間にも、大学での開催なので学生食堂の体験、世界の食卓や世界の料理などを体験しながら、先進国と発展途上国を比較したり、ジビエのバーベキューも行いました。さらに、『未来への手紙』として、世界への提言、未来の自分への手紙で、締めくくりました。

大学生が中心となって中高生を指導し、環境問題についてじっくり考えるよい機会を与え、環境教育として非常に有意義な会議とすることができました。ワークショップでは、彼らの工学部生としてのアイデアを出して、濾過材料の組合せなどで、一番効率の良い濾過装置を作ることを行いました。

準備から実施まで１ヶ月ほどという短い期間の中で、授業時間外に全てを成し遂げたことは彼ら自身の大きな成果です。実際の教育効果や今後の課題などが次回に生かせるように引継ぎができるとよいと思います。

▲作った濾過装置で汚水の濾過実験の様子

市民の森ながの

受入チーム　市民の森づくりプロジェクトチーム

市民の森づくりプロジェクトチームのかんじき作り、林業講座、森林整備やワークショップに参加させていただきました。そこで、森林整備の知識や技術について学び、特に、『樹種や木の特性などを理解した上で、その木が生える又はこのまま成長し続けることで、森林全体にどのような影響を及ぼすかを考える』ことの重要性を感じました。また、４回の林業講座では、チェーンソーの基本的な使い方、長野の森林・林業の特徴や、伐倒・造材・搬出の流れなどを様々な方法から学びました。中でも、伐採ではなかなか思うように木が倒れず、また、かがり木などの処理を行う機会もあり、大変勉強になりました。

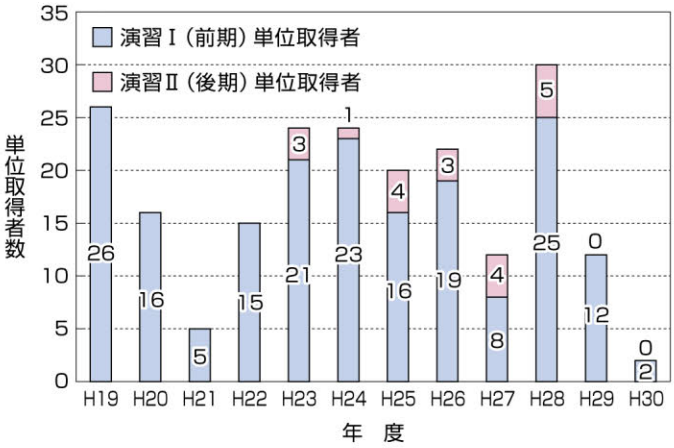
▲伐倒した木（林業講座にて）

▲排気量順に並んだチェーンソー（林業講座にて）

大学で建築学を専攻する学生にとって木材は材料の一つであるが、実際に山に入って一連の作業を行うことは、たいへん貴重な体験となり、多くを考え･学ぶ場となりました。また、参加した年齢の異なる方々とも話す機会は、世代を超えた交流の場となり、これも貴重な機会となります。後期は、一市民として参加させていただき、秋、冬の活動を学びました。

地域環境演習の単位取得者の推移

右図に地域環境演習の単位取得者数の推移を示します。演習Ⅰでは、12年間で平均で15名、計149名が参加させていただきました。受け入れていただいたながの環境パートナーシップ会議の各チームの方々にあらためて感謝いたします。平成30年度、令和元年度の直近２年間は、受講生が２名、４名と激減しております。これは、工学部の学科改組で、環境機能工学科がなくなったことことによるものなのかはわかりません。信州大学および工学部としては、環境方針を掲げ、ディプロマシー（学位授与方針）の一つにも環境マインドを含めておりますが、社会全体がやや環境問題に関心が薄れてきた一つの表れなのかもしれませんが、引き続き、受講者が増えるようにしたいと考えております。



▲地域環境演習の単位取得者の推移
（演習Ⅱは、平成23年度より開始）

以上のように、本年度もながの環境パートナーシップ会議の皆様には、本学学生が大変お世話になり感謝しております。学生たちには若い力とアイデアを期待されていますが、それに応えるにはさらなる教育･指導が必要であると感じています。一昨年、昨年の報告書でも書かれておりましたが、受講生はもっと担当教員に相談してほしいと思います。われわれ３名の担当教員だけでは手に負えないことでも、工学部の他の教員にまでネットワークを広げることも可能です。「地域環境演習」は工学部の環境教育において特色を誇る科目の一つです。今後も、工学部の環境委員会などで学部全体としての環境教育の在り方を再検討しており、一定の方針の下で環境教育を支えていく体制を作れるよいに努力してまいります。引き続き、ながの環境パートナーシップ会議の皆様の学生受け入れをよろしくお願いいたします。

プロジェクトサポーター制度の紹介

４つのプロジェクトチームとサポーター事業者が協働による事業を展開していましたが、新たに1つのプロジェクトチームとサポーター事業者が連携を結びました。
引き続き事業者との協働体制による環境活動を推進していきます。

New

株式会社公害技術センター
×
生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)PT

長野市委託浄掃事業協同組合	×	生ごみ削減・再生利用PT
直富商事株式会社	×	子どもの環境学習支援PT
コマキ工業株式会社	×	小生物の育成環境保全PT
信陽食品株式会社	×	ぽんすけ育成PT

◉プロジェクトサポーター制度とは…

事業者の参画をより一層促していくため、プロジェクト活動に協働・支援・共感等いただける事業者が、直接、人的・活動資金・活動場所などを支援いただき、協働体制による継続的な環境活動の展開を図ることを目的に平成28年度に当制度を創設しました。

新聞記事等で見る

ながの環境パートナーシップ会議の活動

H30.7.19
長野市民新聞

シナイモツゴ 生息環境学ぶ

信里小で観察会

信里小学校敷地内や周辺の池で16日、地元の篠ノ井信里地域の住民から「ぽんすけ」の愛称で親しまれる淡水魚シナイモツゴの観察会があった。地元の保護団体「ぽんすけ育成会」の主催。会員や一般の約40人が、絶滅が危惧されるシナイモツゴの生息環境や保護の意義に理解を深めた。

参加者は、観察用に池の魚を捕まえる網を仕掛けて1時間近く置き、中に掛かったシナイモツゴなどを容器に移して観察。盛んに口を開閉する様子に見入ったり、手に取ったりしていた。捕まえた魚は後で池に戻した。

水槽に入れたシナイモツゴを観察

案内役の古賀和人・戸隠地質化石博物館研究員は、この池には大型のコイがすむ影響もあってか、他の水生生物の種類が少ないとし、「シナイモツゴも何かのきっかけでいなくなる可能性がある」と指摘した。信里小学校6年生の畠山泰英君は「ぽんすけは口をパクパクとしてかわいい。池を汚さず、貴重な魚を守りたい」と意識を高めていた。

観察会は、同育成会が16（平成28）年から定期的に開き、4回目。同日は食品メーカーの信陽食品＝北条町＝から、活動支援として同社の即席麺「ポンちゃんラーメン」120食が寄贈された。

H30.7.26
長野市民新聞

生ごみ堆肥で栽培のイモ収穫

屋島の畑で体験会

長野市などでつくる「ながの環境パートナーシップ会議」の生ごみ削減・再生利用チーム（河西弘明チームリーダー）は22日、落合橋近くにある屋島の畑で生ごみ堆肥で栽培したジャガイモの収穫体験会を開いた。同会議の関係者や家族連れら約60人が、大きく育ったジャガイモを掘り出した。

参加者は、同チームが4月に種芋を植えた約300平方㍍の畑で、キタアカリなどの品種を収穫。子供は大人にシャベルで土を掘ってもらい、埋まっているジャガイモを探し出した。

ジャガイモの収穫を楽しむ子供ら

収穫体験会は、子供や保護者に生ごみ削減への関心を高めてもらうために企画し、今年で3回目。収穫したジャガイモはそれぞれが持ち帰った。

小学校3年の山口士苑君（8）は「ジャガイモがいっぱい取れて楽しかった」と喜んでいた。

家族で参加した松代

校外学習で浅川散策

北部中 1年生 チョウ生息地など巡る

北部中学校1年生203人は11日、校外学習で地元の浅川地区の特徴を学んだ。自然や歴史、農業など7コースに分かれ、住民ら講師の案内で散策。熱心にメモを取りながら地域への理解を深めた。

自然や生物、植物がテーマのコースには24人が参加。市霊園内にある絶滅危惧種のチョウ「ゴマシジミ」の生息地や、長距離を渡るチョウ「アサギマダラ」のために住民が浅川ダム付近に設けた食草フジバカマの植栽地などを巡った。

真光寺ループ橋下にある蛍の群生地では、浅川沿いのホタル再生に取り組む「ホタルの会」の中澤健次郎さん(78)＝浅川西条＝から「浅川の水は有機物を多く含み、蛍のえさとなるカワニナが育ちやすい」と説明を受けた。ダム下流の真光寺に住民が整備した蛍の観賞地も確認した。

市霊園でゴマシジミの幼虫が食べたワレモコウを探す生徒

生徒の中島龍一郎さん(13)は「ゴマシジミ保護のために、自分も何ができるか考えたい」と話していた。

H30.10.18
長野市民新聞

オオムラサキ生息地に看板

松代の関係者ら除幕

環境保護の決意新たに

◇

松代地区住民自治協議会などは、チョウの「オオムラサキ」を保護する松代町の林地に看板を設置し、1日に現地で除幕式を開いた。地元関係者や保護活動団体のメンバー、来賓などが出席。貴重な自然環境を末永く守る決意を新たにした。

◇

看板は横1・7㍍、縦40㌢のサクラの木板。加藤市長の揮毫(きごう)で「国蝶オオムラサキの里」の文字を手彫りし、オオムラサキの絵を添えた。

式には、まきば保育園＝松代温泉＝の園児約60人も参加。園児の代表が市長らと一緒に除幕し、全員で童謡などを合唱した。

オオムラサキの保護に20年以上取り組む地元の小林正さん(76)によると、約7㌶の林地には葉がオオムラサキの餌となるエノキが約200本あるという。式の経過報告では「エノキがこれだけ密集する場所は珍しい。まさに長野市の宝だ」と説明、保護意識の広がりに期待していた。

この林地は、オオムラサキの保護に向けて市が15(平成27)年、土地所有者の企業から約2㌶の寄付を受け、その周囲約5㌶を5年間無償借用して管理。松代自治協や複数の保護活動団体が市と連携して間伐や下草刈りをするなど環境を整え、小・中学生向けに自然観察会を開いている。

看板の除幕に花を添えた園児の合唱

H30.11.6
長野市民新聞

「SDGs」を学ぶ

ながの環境パートナーシップ会議　未来への開発目標

国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」について学ぶイベントが15日、市生涯学習センターで開かれた。長野市内外から23の団体と企業の約100人が参加し、未来に向けた環境保全などの取り組みについて考えた。

SDGsは、持続可能な社会を実現するために、国連加盟国193カ国が2030年までに達成を目指す開発目標。15（平成27）年の国連サミットで採択され、貧困、保健、エネルギー、気候変動など17の重要課題について指針を示している。

イベントは長野市民と企業、市が連携して環境保全に取り組む「ながの環境パートナーシップ会議」の主催。地元の団体や企業の事例発表や専門家の講演、分科会などがあった。

事例発表では、県NPOセンター＝高田＝の山室秀俊事務局長が、同センターを拠点に地域の課題解決に取り組む学生ボランティアサークル「ユースリーチ」の活動を報告。環境や社会に配慮した製品やサービスを選ぶ「エシカル消費」の勉強会や、しなの鉄道北長野駅周辺の公園と川のごみ拾いなどに励んでいることを紹介し、「来年度からは若者を主役にSDGsに特化した活動にしていきたい」と語った。

持続可能な社会について学ぶ「ユネスコスクール」に認定されている文化学園長野高校の2年生、片桐覇道（はどう）さん（17）は「授業で学んでいるが難しくて分からない部分もある。この場で勉強して、自分たちにできることを考えたい」と話していた。

活動を報告する県NPOセンターの山室事務局長

H30.12.20
長野市民新聞

田中桜公園に看板

若槻地区　地元有志 存在アピール

若槻地区田中の住民有志は、桜の名所を目指して地元の土京山中腹に整備している「田中桜公園」の看板を作り、21日に現地で開いた公園祭りで披露した。住民に公園の存在をアピールし、親しみを持ってもらう。

看板はおおむね縦180㌢、横45㌢。名称を書き、公園の入り口に設置した。祭りでは除幕式を行い、集まった約50人の住民が「これなら場所が分かりやすいね」などと看板を囲んで話していた。

看板を設置した祭り実行委員会の上條補喜委員長（70）は「公園の場所が分かりやすくなったので、多くの住民に親しみを持ってもらえればいい」と期待していた。

お披露目後は参加者が桜の成長を観察。田中公民館で実行委が豚汁を振る舞ったり、地元グループがコカリナを演奏したりして交流した。

披露された看板

同公園は、住民有志が約4500平方㍍の耕作放棄地を整備中。過去2回の公園祭りで、タイリョウザクラやヤエベニオオシマなどさまざまな品種の桜苗木約80本を植樹している。昨年は5～6本が花を咲かせたという。

H31.3.28
長野市民新聞

●新聞等掲載一覧表（H30.6.1 ～ R1.5.31）

番号	掲載年月日	掲載新聞名・広報紙名	掲載記事見出し	掲載記事の関係団体名（P会議プロジェクト及びP会議会員団体等）
1	H30.6.21	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン2018 in ながの　広告	ライトダウンながの実行委員会
2	H30.6.24	信濃毎日新聞	未来図　長野から発信へ　海外の仲間と環境問題学習	国際ユース環境会議実行委員会（子どもの環境学習支援PT）
3	H30.6.28	信濃毎日新聞	絶滅危ぶまれるシナイモツゴ　長野の信里で観察会	ぽんすけ育成PT
4	H30.7.3	長野市民新聞	エシカルの店　マップを制作	NPO法人みどりの市民
5	H30.7.3	長野市民新聞	児童　チョウを観察　松代生息オオムラサキ	小生物の育成環境保全PT
6	H30.7.3	長野市民新聞	自然と向き合い活動	中島佐代子さん（信州フォレストワーク理事長）
7	H30.7.3	信濃毎日新聞	子ども食堂　県内でさらに　取り組む有志が研修会	信州子ども食堂ネットワーク（事務局・NPOホットライン信州）
8	H30.7.5	長野市民新聞	生ごみ堆肥で育てた野菜　屋島の畑で収穫体験	生ごみ削減・再生利用PT
9	H30.7.5	信濃毎日新聞	オオムラサキの繁殖地で観察会　長野市松代120人参加	小生物の育成環境保全PT
10	H30.7.12	長野市民新聞	浅川自治協が食草植栽　ゴマシジミ保護	ゴマシジミ保護・育成PT
11	H30.7.12	長野市民新聞	篠ノ井信里地区で　シナイモツゴ16日に観察会	ぽんすけ育成PT
12	H30.7.19	長野市民新聞	シナイモツゴ生息環境学ぶ　信里小で観察会	ぽんすけ育成PT
13	H30.7.24	長野市民新聞	アレチウリを駆除　犀川の河川敷で	豊かな環境づくり長野地域会議（P会議として参加）
14	H30.7.24	長野市民新聞	平成30年盛夏　暑中お見舞い申し上げます　広告	ながの環境パートナーシップ会議
15	H30.7.25	信濃毎日新聞	シナイモツゴ身近にいたよ　長野で児童ら観察会	ぽんすけ育成PT
16	H30.7.26	長野市民新聞	生ごみ堆肥で栽培のイモ収穫　屋島の畑で体験会	生ごみ削減・再生利用PT
17	H30.7.28	長野市民新聞	循環型社会の構築へ　生ごみ堆肥の普及に力点	NPO法人みどりの市民
18	H30.8.18	長野市民新聞	空　NPOのリレーコラム　エシカル消費	渡辺ヒデ子さん（NPO法人みどりの市民事務局長）
19	H30.8.22	信濃毎日新聞	絶滅危惧種　長野・浅川の霊園で　ゴマシジミ　飛び回る	ゴマシジミ保護・育成PT
20	H30.8.30	長野市民新聞	家族連れが野菜収穫　芋井の体験農場　早速バーベキューに	天空の里いもい農場
21	H30.9.29	長野市民新聞	ごみ減らす調理法は　若槻自治協が環境講座	生ごみ削減・再生利用PT
22	H30.10.11	長野市民新聞	信里小の池補修　シナイモツゴを保護	ぽんすけ育成PT
23	H30.10.18	長野市民新聞	校外学習で浅川散策　北部中１年生　チョウ生息地など巡る	ゴマシジミ保護・育成PT
24	H30.10.18	信濃毎日新聞	アサギマダラ　松代彩り　市民整備のフジバカマに飛来	小生物の育成環境保全PT
25	H30.10.20	長野市民新聞	エコ活動本部　設立へ　商議所がごみ減推進で	長野エコ活動推進本部（長野商工会議所）
26	H30.10.23	信濃毎日新聞	持続可能な社会を考えよう　長野で来月13日　公開学習会	ながの環境パートナーシップ会議
27	H30.10.27	長野市民新聞	事業系ごみの削減へ　長野エコ活動推進本部設立	長野エコ活動推進本部
28	H30.10.27	長野市民新聞	気候変動や人権　国際目標を学ぶ　市役所で13日	ながの環境パートナーシップ会議
29	H30.10.27	週刊長野	ながの環境パートナーシップ会議公開学習会	ながの環境パートナーシップ会議
30	H30.11.6	長野市民新聞	オオムラサキ生息地に看板　松代の関係者ら除幕	小生物の育成環境保全PT
31	H30.11.15	長野市民新聞	信里でため池保全　ヨシ刈りや泥の除去	ぽんすけ育成PT
32	H30.11.22	長野市民新聞	ながの環境団体大集合2018　広告	ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクトチーム
33	H30.12.7	信濃毎日新聞	ヤンジャ　ながの環境パートナーシップ会議に参加の大学生	鈴垣光さん（信大）、矢野智子さん（信大）
34	H30.12.8	長野市民新聞	市内の環境団体取り組み発表　15日の集いで	ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクトチーム
35	H30.12.8	週刊長野	「持続可能な開発目標」環境保全へ講演・分科会	ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクトチーム
36	H30.12.20	長野市民新聞	「SDGs」を学ぶ　未来への開発目標	ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクトチーム
37	H30.12.20	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン2018 in ながの　広告	ライトダウンながの実行委員会
38	H31.1.19	長野市民新聞	空　NPOのリレーコラム　若者たちが環境問題に取り組む	小林達矢さん（市民協働サポートセンター）
39	H31.2.25	エコシン	第８回「ながの環境団体大集合」が開催されました	ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクトチーム
40	H31.3.28	長野市民新聞	田中桜公園に看板　地元有志　存在アピール	田中さくら公園作り＆里山づくりPT
41	H31.4.11	長野市民新聞	松代の桜苗木　浅川に　ダムや霊園周辺に	小生物の育成環境保全PT ゴマシジミ保護・育成PT
42	H31.4.20	週刊長野	種をまき　苗を育てて配る　町中にエドヒガンザクラを	小生物の育成環境保全PT
43	R1.5.18	長野市民新聞	空　NPOのリレーコラム「エシカルふぇすinながの」開催へ	渡辺ヒデ子さん（NPO法人みどりの市民事務局長）
44	R1.5.25	週刊長野	生ごみ堆肥化の会員募集	NPO法人みどりの市民
45	R1.5.25	信濃毎日新聞	持続可能な開発　ゲーム通し体感　長野で県NPOセンター	長野県NPOセンター

SDGsの達成に向け
ながの環境パートナーシップ会議は
環境保全活動を推進していきます

2015(平成27)年９月に、ニューヨークで開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。これは、人間や地球の繁栄のため2030年までに達成するべき行動計画として掲げたものです。この目標が「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals 略して SDGs(エスディージーズ))」であり、これまでのアジェンダ21やミレニアム開発目標(MDGs)」などの理念と成果を土台に、豊かさを追求しながら地球を守ることを呼びかける17の目標と169の行動計画で構成され、「誰一人取り残さない」という理念のもと、環境問題と経済発展を両軸に、先進国、発展途上国を含めた全ての国々に持続可能な世界に向けての変革を求めています。

これを受け、日本では、2016(平成28)年５月に、「持続可能な開発目標(SDGs)推進本部」を設置し、同年12月には、実施指針を決定しています。実施指針では、「持続可能な強靭、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の総合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」ことをビジョンに掲げ、政府が市民・事業者・NPO法人・行政と協力してSDGsの推進に取り組むことを示しました。

ながの環境パートナーシップ会議では、「アジェンダ21ながの―環境行動計画―」による環境保全の活動を実施していくとともに、このSDGsの目標達成に寄与するよう、市民・事業者・行政が協働して、地域から地球規模につながる環境保全活動を推進していきます。

幸せ実感都市『ながの』
～"オールながの"で未来を創造しよう～

団体・企業も
新会員募集中!!

入会のお申し込み・お問い合わせ先

ながの環境パートナーシップ会議　事務局

長野市環境保全温暖化対策課内
〒380-8512
長野市大字鶴賀緑町1613番地
TEL.026-224-5034
FAX.026-224-5108
E-mail:kankyo@city.nagano.lg.jp
http://www.nagano-ep.net/

入会申込書は、ながの環境パートナーシップ会議事務局に用意してあります。また、本会のホームページからもダウンロードできます。必要事項をご記入の上、事務局まで郵送、ファックス、電子メールでお送りください。

いつでも入会できます。会員になって、一緒に環境保全活動を進めましょう（年会費一口500円）。

長野市地球温暖化防止活動推進センター
〒380-0835
長野市新田町1513-2
（82プラザ長野）
TEL 026-237-6681
FAX 026-237-6690
E-mail eco-mame@dia.janis.or.jp
http://www.eco-mame.net/

ながの環境パートナーシップ会議
平成30年度活動成果報告書
「手をむすんで」

令和２年２月発行
編集発行：ながの環境パートナーシップ会議　長野市地球温暖化防止活動推進センター
印刷・製本：蔦友印刷株式会社

PRINTED WITH SOY INK 環境保全のため、再生紙および大豆インクを使用しています